

# 恵方巻きのシーズンを控えた小売業への呼びかけ

農林水産省では、平成31年1月11日付けで、小売業者の団体に対し、「恵方巻きのシーズンを控えた食品の廃棄を削減するための対応について」を発出しました。

## <内容>

- 貴重な食料資源の有効活用という観点を踏まえた上で、需要に見合った販売の推進について会員企業への周知を依頼。
- 一部の小売業では、予約販売を徹底したり、折込チラシで資源を大切にすることを消費者に呼びかけ、廃棄の削減に繋げた事例も紹介。  
(裏面参照)

## <発出先団体>

日本チェーンストア協会 会長

(一社) 日本スーパーマーケット協会 会長

(一社) 全国スーパーマーケット協会 会長

オール日本スーパーマーケット協会 会長

(一社) 日本フランチャイズチェーン協会 会長

日本生活協同組合連合会 代表理事会長

(一社) 日本ボランタリーチェーン協会 会長

## <連絡先>

農林水産省 食料産業局 バイオマス循環資源課 鈴木、齋藤、佐藤 (TEL : 03-6744-2066)

# 資源を大切に、大量廃棄を回避したスーパーの取組

・恵方巻きの大量生産について「もうやめにしよう」と事前にチラシで投げ掛けることで、消費者に理解をいただき、廃棄量を削減した事例。

- 恵方巻きは、節分に恵方に向かって食すると縁起が良いとされる巻き寿司で、季節商品として定着しつつある一方、2017年は廃棄された大量の恵方巻きがSNSで話題となった。
- 兵庫県内で8店舗を展開するスーパー「ヤマダストアー」では、2018年2月に、海産資源を大切に作る気持ちから、恵方巻きなどを広告した折込チラシに「もうやめにしよう」というメッセージと共に、「今年は全店、昨年実績で作ります」、「欠品の場合はご容赦くださいませ」という文章を添えて発信。昨年実績より多く作るという商慣習に対し、あえて売り方の見直しを行い、事前にお客様に向けてお知らせした。
- その結果、兵庫県内8店舗中5店舗で完売。前年に比べ、廃棄量は減少した。
- 翌日、反響の大きさに、改めて、伝えたかった思いをウェブサイトで紹介。資源や人口も減っていく中で新しいやり方を模索する時代に入ったのではないかという投げ掛けであることと共に、「この取組は小売だけでは実現できません。消費者の皆様ご理解があっはじめて成り立ちます」という文章で、夕方頃に欠品が発生した商品・店舗でのお客様からのクレームはなく、温かい言葉・励ましの声をかけてくださったことへのお客様への感謝の気持ち、全国の消費者・同業者の方々の応援メッセージへの御礼の言葉を掲載した。

## もうやめにしよう

売上至上主義、成長しなきゃ企業じゃない、  
そうかもしれないけど、何か最近違和感を感じます。

昨年あちこちで大量に廃棄された恵方巻がSNSで話題になりましたが、そりゃそうです。  
のばせのばせ、ふやせふやせの店舗数と恵方巻の大量生産で数は膨れ上がり続けています。

食材を原価だけで考えてるからそんなことになるんやと思う。水も土も海産資源も地球が無料で私たちに与えてくれています。  
スーパーの現場で働くと、どんなに偉い字者さんじゃなくても分かります。  
ヤマダの鮮魚従業員も「海産資源は絶対減ってる」って言ってます。だから大事にしたいんです。

今年も1本1本心を込めて巻きました。ヤマダの巻寿司は殆どお店で巻いています。  
魚屋さんで魚を切って、お肉屋さんでお肉を焼いて巻いています。

今年もしかしら早くに無くなるかもしれないけれど、ヤマダはこれ以上成長することより今を続けられることを大事にしたいです。  
最後の1本の恵方巻までお客様に愛されますように。

ちょっと変なスーパー ヤマダストアー株式会社

## ※今年は全店、昨年実績で作ります

売れ行きに応じて数を増やすことを今年は致しませんので、欠品の場合はご容赦くださいませ

